

令和4年度業績

1) 論文・著書

1. Hanada K., Yokoi K., Kashida N., Shimomura R., Murata D., & Hirayama K.
『 Midlateral medullary infarction presenting with isolated thermoanaesthesia: a case report』
BMC neurology, 2022, 22(1), 268.
2. Zhang S., Ito D., Ogura R., Tominaga T. & Ono Y.
『 Acute Effect of Treadmill Walking under Optic Flow Stimulation on Gait Function in Individuals with Stroke and Healthy Controls』
Advanced Biomedical Engineering, 2022, 11, 179-185.
3. Sasakawa M., Ito D., Tominaga T., Ono Y., & Ogura R.
『 Development of virtual-reality-based exergame for lower-extremity rehabilitation of stroke patients』
Proceedings of 2022 APSIA Annual Summit and Conference, 7-10 November 2022 Chiang Mai Thailand, 2095-2098

2) 学会発表

1. 羽尻高司
『表記不能型ジャルゴンから皮質下損傷型失構音に移行した左被殻出血後失語の一例』
第23回日本言語聴覚学会 2022.6.23～24
2. 下村亮太
『脳卒中片麻痺患者に対する経頭蓋静磁場刺激の臨床応用について』
第59回日本リハビリテーション医学会学術集会 2022.6.23～25
3. 下村亮太
『能動的な社会参加により、麻痺手を使用した生活行為が増加した症例』
第56回日本作業療法学会 2022.9.16～18
4. 石橋凜太郎
『左被殻出血により失語症、右片麻痺を呈した症例に対して上肢活動量計測とADOC-Hを用いて麻痺手使用に関する行動変容を促した試み』
第56回日本作業療法学会 2022.9.16～18

5. 寺田萌
『胃瘻を用いた経管栄養の自己管理を目指した両片麻痺症例』
第 56 回日本作業療法学会 2022.9.16～18
6. 藤原瑤平
『麻痺肢の使用頻度が低下した症例に対するゲームを用いた介入』
第 56 回日本作業療法学会 2022.9.16～18
7. 空野楓
『重度記憶障害を呈した患者家族の介護負担感に着目し外来リハビリテーションを実施した一例』
第 56 回日本作業療法学会 2022.9.16～18
8. 中西亮太
『ADOC-H と活動量計測を用いた介入により麻痺手を生活で使用するための行動変容を促した慢性期脳卒中症例』
第 56 回日本作業療法学会 2022.9.16～18
9. 平見彩貴
『重度の自発性低下を呈した症例に対する情動メカニズムに着目した一介入』
第 56 回日本作業療法学会 2022.9.16～18
10. 古井美穂
『多彩な高次脳機能障害を呈した感覚性失語症例への関わり・意機能に着目して-』
第 22 回認知神経リハビリテーション学会学術集会 2022.10.1～2
11. 寺田萌
『軽度片麻痺患者における運動時に生じた違和感についての一考察 -周期運動の学習特性に着目して-』
第 22 回認知神経リハビリテーション学会学術集会 2022.10.1～2
12. 平見彩貴
『CEA 後の強い運動時振戦に対し非麻痺側手を用いた介入を探索的に実施した一症例』
第 22 回認知神経リハビリテーション学会学術集会 2022.10.1～2
13. 山岡竜也
『脳卒中後重度表在覚鈍麻を呈した症例に対する TENS 併用歩行練習の効果-立位バランスに着目-』
第 20 回日本神経理学療法学会 2022.10.15～16

14. 山下弘晃

『短下肢装具が脳卒中患者の歩行開始動作に与える影響』

第 20 回日本神経理学療法学会 2022.10.15～16

15. 高木優汰

『脳卒中後重度表在覚鈍麻を呈した症例に対する TENS 併用歩行練習の効果・歩行能力と感覚鈍麻に着目-』

第 20 回日本神経理学療法学会 2022.10.15～16

16. 下村亮太

『脳卒中片麻痺患者に対する経頭蓋静磁場刺激の臨床応用について』

第 34 回大阪南西部脳神経外科懇話会 2022. 10. 22

17. 石橋凜太郎

『感じられない、感じてしまう、違って感じる、身体・体性感覚』

第 46 回日本高次脳機能障害学会学術総会 2022.12.2～3